



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.hoyukai.org/>

第146号

発行:2018年6月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

## 働き方改革とは何か

～ 働き続けることのできる職場、そして患者の傍らに ～

湘南泉病院 看護部長 三澤 利重子



私が、看護部長を任して頂いたときに一番の目標に考えたのは、「働きやすい職場、働き続けることが出来る職場」でした。今もその思いに変わりはありません。

最近提唱されている「働き方改革」と聞いて考えるのは、例えばスタッフが少ない時に【家族の誰かが急に体調を崩して呼び出しが来たというスタッフに、安心して快く送り出すことができる職場であるかどうかということです。】スタッフが育つ組織風土、スタッフ一人ひとりが自ら働き方を考えることが必要です。また有給消化率向上を目標にしています。これは余暇をインプットに充て、心身ともに補填し、それをアウトプットに繋げていくことを期待するからです。次に残業短縮の取り組みについて考えると、単に労働時間を管理するのではなく「なぜ、残業しなければならない状況になっているか？」を把握し、その解決策をスタッフ自身が考え出す支援をすることが管理職のカギになると思います。ここでのポイントは、解決策を出すのではなく、解決策を自ら考える支援をすることです。人は、指示、命令されるとそれに慣れて自分で考えることを放棄します。また指示されたことよりも、自分で答えを導いた方が、モチベーションを高く保った状態で行動に移せることが自身の経験からも分かります。

成果を上げるために最善策は何か？を自ら学び合う組織になり、また仕事だけでなく、他のスタッフのプライベートな時間を応援しあえる良好な関係性により、何時でも共に切磋琢磨しあえる風土を築きながら支え合うこと必要です。「おたがいさま」精神の高い、職場の成長を目指して。

私が、働き方について、日々考え、実践していることをお伝えします。

将来の思い・・・未来観

- ・ どうしていききたいのか
- ・ 何を達成していききたいのか
- ・ ビジョン、夢

～コミュニケーションの良い、風通しの良い職場環境を作っていきたい～

やり方のこだわり・・・仕事観

- ・ スタッフの思いを分かろうと努力する

・ 自分の専門職としてのプライドを持つ

・ 自分の生きざまに責任を持つ

自問自答、問いかけ・・・人生観

・ こんなことではいけないのではないかと？

・ これからはどうあるべき

～意識して行動していく～

スタッフへの愛情・・・人材観

・ こうなってほしい。こうなってくれたらうれしい。

・ これからのスタッフにはもっとこんなことを期待する。

・ 最も役に立った経験を伝えて行こう。

～どんな時でも嫌な顔をせず、一人ひとりに向かい合っていく～

看護部の合言葉は、「看護師は、患者の傍らに」です。患者の傍らで、思いやりのある看護が提供でき、ホスピタリティマインド精神が高く保てるように、管理職として「管理職は、スタッフの傍らに」を実行したいと考えます。自分の実体験に基づく思いや、仮説を持って、組織のビジョンを主体的かつ前向きに理解し、実行して行きたいです。多くの関係者との多様な関係性を大事にして組織成長が出来るようにこれからも何事も真摯にうけとめ俯瞰的行動を心がけていきたいと思えます。

また看護協会の最近掲げた、ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）についてです。看護職の働き方や場の多様化が進む中、看護職が健康で安全に働き続けられる、持続可能な職場環境の整備が急務であることから、ガイドラインが整備されました。出来る事から一つずつヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）づくりの実践を目指して行きます。

最後に働き方改革は、自身で改革し、自律していくものです。働き続けることのできる職場は、関わる全ての人の責任です。改めて風通しのよいコミュニケーションのとれた職場環境を追求していくことの大事さ、必要性を感じています。働き方改革は、「働き方・考え方は多様」でも「目指すべきミッションは一樣」であることを忘れないことです。それは「患者が中心」。

## 湘南泉病院職員、旅行先で人命救助

湘南泉病院職員 病棟クラーク 田中 希代子 主任が、4月の連休中に旅行先の新大阪駅で男性が突然倒れた場面に遭遇しました。不慣れな場所でどうしているのかわからない状況でしたが、とっさに「誰か来てください！」と大声で叫び、同時にAED（心臓救命装置）を探し、駅員さんに声をかけました。その時、田中主任の大声に気づいた駅利用中の看護師が駆けつけ、救命処置を行い、幸いAEDは必要なく救急隊が到着した頃には男性の意識が戻っていました。

田中主任は『実際、AEDを使用することはありませんでしたが、たまたま、3月に職場でのAEDの使い方を含む救命処置の研修を受けていたので、とっさに動きました』と話していました。

後日、JRの方からお礼の電話がありました。

当院では、医師・看護師に限らず、医療従事者として全職員が一次救命処置ができるように、心臓マッサージやAEDの使い方の研修を定期的に行っています。実際に、救命処置は行いませんでしたが、人命救助に役立つことができましたので、今後も研修を行ってまいります。



田中主任



3月の研修風景

## 湘南泉病院 病室リニューアル

湘南泉病院では、現在全病室の壁紙をリニューアル中です。新しい壁紙で室内の雰囲気も変わり、気分一新です。

病棟は治療の場であると同時に患者さんが入院中に生活する場でもあります。また、職員にとっては働く場、今回の壁紙張替えは、皆が気持ちよく過ごせるための環境づくりの一つとして実施しました。

これからも患者さんが安心して入院生活が過ごせるように医療看護を継続してまいります。



茶色を基調とした壁紙



白色を基調とした壁紙



## ほうゆう保育園 園児の訪問

～ 介護老人保健施設 阿久和鳳荘 ～

夏を思わせるような5月の晴れの日、『ほうゆう保育園』の子どもたちが、介護老人保健施設 阿久和鳳荘を訪問してくれました。

元気いっぱいの体操やお歌、絵本「はらぺこあおむし」を題材にしたパネル劇を披露しました。

最後は、子どもたちが可愛い蝶になって、フロアを回りました。

